

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「“賞味期限切れ”食品のスーパー『WeFood』がデンマークにオープン！」
- 2) 「野菜の水分で産地特定、NTTなど技術開発 偽装販売防止で」
- 3) 「オーミケンシ、木材パルプからできた麺やご飯を発売へ」
- 4) 「洗濯機つきのエアロバイク「B.W.M.」一洗濯しながらダイエット」

---

1) 「“賞味期限切れ”食品のスーパー『WeFood』がデンマークにオープン！」

食品廃棄量の削減を目的に、賞味期限切れの食品を専門に扱うスーパーマーケット「ウィー・フード（WeFood）」が、2月22日にデンマーク・コペンハーゲンにオープンした。

同店は、貧困・エイズ・飢餓の撲滅に取り組む慈善団体（ダン・チャーチ・エイド）とホームレス支援施設に余った農産物を配るNGO団体（フードバンク）が共同で運営する非営利事業で、スタッフは全てボランティアで運営されている。

店頭には並ぶのは、合法かつ安全に消費できる食品や化粧品、家庭用品などで、賞味期限切れ以外にもラベルが間違っていたり包装に傷や汚れが付いているなどの理由で店頭には並ばなかった商品も売っているという。

行列ができるほどの人気となっており、通常価格より30-50%割り引いた価格で販売されている。

WeFoodの広報担当でダン・チャーチ・エイドのニコライ・ソンダーガード氏は、全ての利益は同団体の発展途上国での活動に充てると述べ、デンマークの食品・環境大臣も出席し、この活動を「食品廃棄問題を解決する大きな一歩」と歓迎しているという。

日本国内でも「食品ロス問題」が大きく取り上げられているが、デンマークおよびヨーロッパ諸国でも同じような問題が起こっている。

今回WeFoodがオープンしたことにより、世界各国のニュースメディアが報道され、世間が食品ロス問題への関心を抱いただけでも大きな成果があったのではないだろうか。

日本ではまだ専門店はないが、スーパーでは「見切り品」コーナーとして期限間近の商品が売られていることがある。いかにも「売れ残り」といった佇まいで並べられていることが多く、手を出しにくい雰囲気さえ感じることがある。しかしこうした商品も“売り方”を変える、“呼び方”を変えるだけでも再び価値を取り戻せると思う。例えばイオンでは期間限定で、見切り品のステッカーに視覚的に訴えかける「フードレスキュー」という仕組みを取り入れたりしている。日本は海外をお手本にもっと食品廃棄の問題に向き合うべきではないだろうか。

## 2) 「野菜の水分で産地特定、NTTなど技術開発 偽装販売防止で」

NTTなどは野菜や果物の水分から産地を特定する技術を開発した。水分子のわずかな違いから、栽培した土地を絞り込む。今秋にも農作物を郵送で受け付け、産地を調べるサービスをNTTソフトウェアが始める予定だ。

環太平洋経済連携協定（TPP）の発効に伴って農産物の輸入増加が予想されるなか、正しい産地情報を求めるスーパーマーケットや飲食店、消費者の声にこたえる技術になる。偽装販売を防ぐ抑止力にもしたいという。

野菜をすり潰し、重さが少しずつ違う同位体と呼ぶ3種類の水分子をセンサーで分析する。分子の組み合わせは地域ごとに異なり、その土地で育った野菜や果物が含む水に表れる。

シダックスなどと実験し、国産と中国産のニンジンで1-2時間で正しく見分けた。熊本県産と千葉県産も区別できた。

水分を調べるだけかつ短時間で産地を細かく判別できるとあれば産地偽装問題の救世主になると思う。その結果を偽装されると元も子もないが、技術がさらに発展して消費者自ら調べられるようになれば良いと思う。

---

## 3) 「オーミケンシ、木材パルプからできた麺やご飯を発売へ 低カロリーで調理しやすく」

木材パルプの主成分であるセルロースを麺やご飯状にした低カロリー食品を、紡績大手オーミケンシが個人向けにネット販売する。今年5月の発売見通しで、価格は100グラム入り1袋で200-300円前後を予定。食品メーカーや病院給食サービス業向けにも売り出す。セルロース自体にはカロリーがなく、加工用のコンニャク粉を含めて100グラム当たり6キロカロリーと、うどんや中華麺の5%にも満たない。一方で食物繊維は同5グラムと豊富。同社の乙村誠社長は「無味無臭で調理しやすく、食の楽しみを損なわない」とアピールする。昨年10月に約2億円をかけ、同社加古川工場（兵庫県加古川市）に試作用の製造ラインを新設した。販路体制を整えたうえで、来年さらに約10億円を投じて同工場の空地に新工場を建てる方針。

ターゲットとしてはアレルギーなどで米や小麦を口にできない人、ダイエットしたい人など、幅は狭いが需要はあるだろう。しかし本物に比べて味は劣ることは否定できないと言える。また、成分的に大量に摂取して身体に影響がないのか少し不安でもある。代替食品は話題にのぼることは多いがやはり食卓に定着しにくいので、新工場を建てるとなると売り出し方にも工夫が必要ではないだろうか。

---

## 4) 「洗濯機つきのエアロバイク「B.W.M.」—洗濯しながらダイエット」

面倒くさいけど、する必要がある家事のひとつに洗濯がある。そして、絶対にしなければならないわけではないけれど、した方がいいことの一つがエクササイズである。

それなら、「その2つを無理やり合体させたら一石二鳥ではないか！」との発想から生まれたのが、バイク洗濯機なるエアロバイクだ。過去にバイク洗濯機のコネプトが話題となったことがあったが、現在、あるデザインチームが実用化に向けて試作品を製作中なのだという。

コネプトの段階から、実用化へ向けて進化を遂げているバイク洗濯機が注目を浴びているので、運動しながら洗濯して、同時に省エネと減量が実現できてしまうマシーンについて、再び取り上げてみたいと思う

運動しながら洗濯もできてしまうエアロバイクの試作品を製作しているのは、中国の大連民族大学のデザインチームだ。ドラム式洗濯機になっている前輪部分に洗濯物を投入し、ペダルを漕げばドラムが回転して洗濯できる仕組みになっている。

試作品製作の段階で明らかになった点は、バイクに内蔵された発電機とバッテリーによって、ペダルの回転で起こる電気を蓄えられるシステムが導入されているところだ。よって、省エネになる洗濯機であることは間違いないだろう。

だが、バイクへの注水と脱水が自動なのかは公表されていないため、もしそうでなければ手動で注水と脱水作業を行わなければならないので、かなり面倒ではある。

だがチームは、洗濯機とエクササイズマシーンが欲しいけど両方置けるスペースがない狭いアパートに住んでいる人や、電気の供給が十分でない遠隔地に住んでいる人には便利なマシーンだと述べている。

中国では電気設備が整っていない発展途上の地域もあるため、そういった場所での使用も想定しているようだ。確かに洗濯板で衣類を1枚ずつ洗うよりは、エアロバイクを漕ぎながら洗濯したほうが効率的ではある。

実は、エクササイズマシーンと洗濯機を合体させたアイデアはこれが初めてではない。

2014年には韓国出身のデザイナーが、ランニングマシーンと洗濯機を一緒にしたマシンのコネプトを発表しているのだ。

巨大なハムスターの回し車のようなマシンの車輪部分に、ドラム式洗濯機が搭載されているという突飛なアイデアが、国際デザインコンペのエレクトロラックス・デザイン・ラボで話題となったそうだ。

バイク洗濯機が実用化された場合、いくらで販売されるのか気になるところだ。コストを低く抑えることができれば発展途上国だけでなく、電気の供給が断たれた被災地でも活躍しそうである。

エコ+ダイエット+家事という発想が一石二鳥どころか一石三鳥ですばらしいと思った。

給水・脱水の設備が公表されていないとのことだが、どうせなら自動モード・手動モード選べるようにして欲しい。ジョギングなど軽い運動をする人も増えているので実用化されれば需要は多いだろう。